

## 横浜市地震防災市民憲章（仮称）第1回市民意見募集における意見（概要）

### 【盛り込みたい自助・共助についての考え】

- 1 大震災では、高齢者や障がい者、妊産婦などの弱者が特に危険にさらされ、避難生活では女性が苦勞します。自助・共助の根底に、暮らしの視点、人権への配慮、女性が防災活動でリーダーシップを発揮できるなどの環境づくりが大切です。
- 2 自分の身は自分で守るという「自助」に重点を置いた憲章にすべきです。地域のつながりの重視はいいことですが、盛り込んで絵に描いた餅になるので、自助に重点を置いたうえでそれを共助・公助で補うという大都市横浜の実情にあったものにすべきです。
- 3 発災時の状況のイメージと備えをどこまでできるかにより、人命を守ることにつながることを前提に作成してください。
- 4 横浜の特色である「地域防災拠点」のあり方を示してください。
- 5 自宅以外の生活の場でも、自助を行う心構えを持ちます。
- 6 自助・共助は日本の伝統であり文化です。個人主義・利己主義の生活・思想を反省する必要があります。
- 7 自分で自分を守れない人がいることを忘れないでください。
- 8 家の耐震化への行政からの喚起をすべき、だから在宅避難者への対応は必至です。
- 9 関東大震災の記憶を冒頭で謳ってください。
- 10 子どもたちの避難所運営参加など地域へのつながりを学校を中心にしてつくってください。
- 11 防災訓練は小さなテーマでいいから頻繁にやるほうが良い。気楽のためになり、防災が日常の延長となるような仕掛けがあると良い。
- 12 防災の基本はやはり自助です。
- 13 隣近所で助け合うことの大切さは盛り込まれるでしょうが、共助の表現の中に「互助」「互恵」の精神が生かされるような記述が必要です。

### 【盛り込みたいキーワード】

- 14 「くらしの視点が入った支援」
- 15 「人権に配慮した防災対策・支援」
- 16 「男女がともに取り組む防災対策」
- 17 「命あるものすべての「いのちを守る」」
- 18 「防災・減災ステーションのある都市・横浜」
- 19 「横浜にいる人まるごとみんなが助け合える街」
- 20 「関東大震災の復興の記憶」
- 21 「地域のことをよく知る」
- 22 「人材ネットワークをつくる」
- 23 「一人ひとりの防災力の向上」
- 24 「自分の力を活かせる」

### 【その他期待すること】

- 25 憲章は防災力を高めるための動かぬ指針（羅針盤の北極星）になってほしい。
- 26 小学校で歌う横浜市歌のように、減災の考え方が浸透してほしい。
- 27 この憲章は減災への意識を共通認識として育てるための「スローガン」のようなものから、個々の具体的な対策ではなくアドバルーンのようなものと思います。